

WORLD CONGRESS 2015

健康寿命延伸のための歯科医療・口腔保健に関する『東京宣言』

今、世界の多くの国は、医療の進歩や生活環境の改善により平均寿命が延び、急速な高齢社会を迎えつつある。同時に、平均寿命と健康寿命の乖離が生じ、結果として要介護者の増加という困難な事態に直面している。このことは、高齢者の QOL の低下の防止という極めて大きな課題を抱えることとなる。このような状況の中、健康長寿社会の実現に向かって歯科医療・口腔保健がどのようにかわるかが問われている。

生活環境の変化による生活習慣病（非感染性疾患；NCDs）の増加がもたらす課題を解決し、それによって早世（壮年期の死亡）と急速な自立度の低下を予防し、要介護者を支援することがいま歯科医療に求められている。

WHO の「NCDs 予防と重症化防止に関する世界行動計画」を踏まえ、NCDs 対策を推進していくために世界の歯科医師会、その他の関係機関は、歯科医療および口腔保健の活動と成果を共有するべきである。

また、生涯にわたる口腔の健康は基本的な人権であることから、歯科医療・口腔保健はすべての健康政策に含まれ、提供されるべきである。

ここに健康寿命延伸のための歯科医療・口腔保健にかかわる「東京宣言」を発する。

1. 健康寿命の延伸に寄与する歯科医療・口腔保健のエビデンスの蓄積とそれに基づく健康政策を推進する
2. 歯科保健医療政策と地域保健活動の成果を検証し、その情報を各国が共有する
3. 生涯にわたる歯・口腔の健康の維持は、個人の QOL の向上と NCDs の予防および重症化防止のための基本的要素であり、健康寿命の延伸に寄与する
4. 超高齢社会において、各ライフステージで適切な歯科医療が提供され、国家レベルで口腔保健の実践に取り組むための基本的役割をすべての地域歯科医療機関が担う
5. 口腔疾患と NCDs の共通リスクを認識し、口腔疾患の予防と歯の喪失防止、口腔機能の維持、回復を図るための政策をライフコースアプローチとして推進する
6. NCDs の予防および高齢期における口腔機能低下の予防に寄与し、人々の生活を支えるために、歯科のみならず多職種連携で対応できる環境づくりを推進する

2015年3月15日

世界会議 2015